

## 9月21日：市場は軟調 2か月ぶりの低さの流動性

水曜日の株式市場は、前日までの小幅な回復から一転下落しボラティリティの高い推移が続いた。

ホーチミン市場ではVN指数が-0.69%の1,210.55ポイントとなった。月曜日に2.3%の下落を記録した後、火曜日には1.12%上昇していた。市場の勢いは弱く、309銘柄が下落し、140銘柄が上昇した。

流動性も同様に下落し2か月ぶりの低さとなり、9.8兆ドン（4億1,700万ドル）相当の3億9,200万株が取引された。売買代金、出来高ともに週の初めから下落しており、その幅は-40%近くになっている。

全25セクターのうち6セクターのみが上昇となり他はすべて下落した。特に小売、金融、水産加工、通信、ITセクターは平均下落幅が-1%以上と不調な部門であった。

ビンググループ（VIC）、ビンホームズ（VHM）、モバイルワールド（MWG）、VPバンク（VPB）、ベトインバンク（CTG）、BIDV(BID)、テクコムバンク（TCB）、マサングループ（MSN）、ベトコムバンク（VCB）、カンディエン不動産（KDH）が最もマーケットの下落に影響を与えた10銘柄であった。

一方でビナミルク（VNM）が+1.5%と上昇しマーケット全体の下落を和らげた。

ベトドラゴン証券によると、「マーケットはVN指数の1,190～1,200ポイントの支持線付近での売り圧力から一時的に解放されたことで回復を見せていた。」という。

「しかし、この回復は根強い下落基調が続いた後のテクニカル的なサポートによるものであり、現在の軟調な相場を脱するようないい機会であるとは全く言えない。」（同証券アナリスト Phuong Pham 氏）

Phuong 氏はまた、「マーケットが回復する可能性はあるが、VN指数の上値抵抗線である1,227～1,230ポイントに向かうと、さらに激しい値動きになることも考えられ

る。そのため投資家はリスクを回避できるようなポートフォリオの再構築を通して次の回復基調に備えるべきである。」と述べている。

ハノイ市場では HNX 指数が-0.68%の 265.09 ポイントであり、流動性は小幅の減少であった。1兆ドン相当の 4,600 万株が取引され、火曜日の水準から出来高は-20%、売買代金は-10%の減少となった。

外国人投資家の動きは市場によって分かれ、ホーチミン市場では 1,220 億ドンの売り越し、ハノイ市場では 93 億ドンの買い越しとなった。

---

## ディスクレイマー

このニュースは、投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資に関する決定はご自身の判断でなされますようお願い申し上げます。このニュースは、信頼できると考えられる FiinPro という情報源に基づいて作成されていますが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。このニュースは、Japan Securities Co., Ltd (JSI)から直接提供するという方法でのみ配布いたしております。このニュースのいかなる部分も一切の権利は JSI に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。